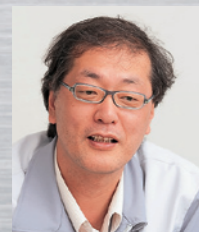


セイコーエプソングループの中・小型ディスプレイ事業を担うエプソンイメージングデバイス。同社では、中国の生産拠点である蘇州愛普生有限公司（以下、蘇州エプソン）との情報共有を促進し、市場ニーズに即応した開発・生産体制の実現を目指している。その一環として構築したのがNECの「Obbligato II」によるPDM (Product Data Management) システムだ。これにより技術文書の一元管理が可能になったほか、豊富なセキュリティ機能によって情報漏えいも抑止している。

セキュアな技術情報管理システムを構築し 中国拠点との安全かつ円滑な情報共有を実現



セイコーエプソン株式会社
生産力強化戦略本部
情報化推進部
グループリーダー
三輪 尚則 氏



セイコーエプソン株式会社
生産力強化戦略本部
情報化推進部
主事
鈴木 基善 氏

蘇州エプソン
正式名称：蘇州愛普生有限公司
所在地：中国江蘇省蘇州市蘇州新区金楓路168号
資本金：1億5100万USドル
設立：1996年2月
社員数：約4000人（2008年12月末時点）
事業内容：エプソンイメージングデバイスグループとして、携帯電話やモバイル機器向けの中・小型LCDパネル後工程およびモジュール実装、タッチパネルの製造を担当。



現地法人への技術情報の移管を目指し PDMシステムの構築に着手

プリンタ事業、映像機器事業、ディスプレイ事業、半導体事業、水晶デバイス事業、精密機器事業などをグローバルに展開するセイコーエプソングループ。同社は、早くから北京や天津、上海、福建、深センといった中国の各都市に生産拠点を積極的に設立してきたが、近年、国内の拠点が持つ製品技術や製造プロセスに関するノウハウをそれらの海外拠点とも共有するという取り組みを進めている。「日中間のエンジニアリングチェーンの円滑化を図り、市場のニーズに素早く対応していくためです」とセイコーエプソンの三輪 尚則氏は、その狙いについて話す。

中・小型ディスプレイの開発、製造などを担当し、グループ内で大きな役割を果たしているエプソンイメージングデバイスでは、中国の液晶モジュール生産現地法人である蘇州エプソンと連携し、2008年頃から、図面や加工規格書などの技術文書の共有に本格的に着手してきた。

その一環として、情報を受け入れる側の蘇州エプソンが取り組んだのが技術文書を一元管理するPDMシステムの構築

だ。従来、蘇州エプソンでは、日本から図面などをメールやFAXを通じて受け取り、翻訳した上で紙の書類として活用、管理していたが、よりスムーズかつ安全に情報を共有するための仕組みを整備することにしたのである。

システムを構築するに当たって、蘇州エプソンが重視したのが「コラボレーション」「トレーサビリティ」「セキュリティ」という3つのポイントだった。最初の2点は、メールやFAXでのやり取りによる手間はもちろん、技術文書の版管理にも課題を感じていたからだ。例えば、変更が蘇州エプソン側の文書に反映されているかどうか把握しづらい、あるいは変更の履歴をトレースするのが難しいといった問題があったのである。

加えて、セキュリティを重視したのは、情報漏えいリスクを低減することが目的だ。FAXやメールによる文書の送信には誤送の懸念がある上、紙ベースの管理では、内部からの情報持ち出しリスクも想定される。「品質検査用のプログラムなどは、品質維持に関わる当社のノウハウを集約したもの。それらが流出すれば、企業としての競争力にダメージが及びかねません」とセイコーエプソンの鈴木

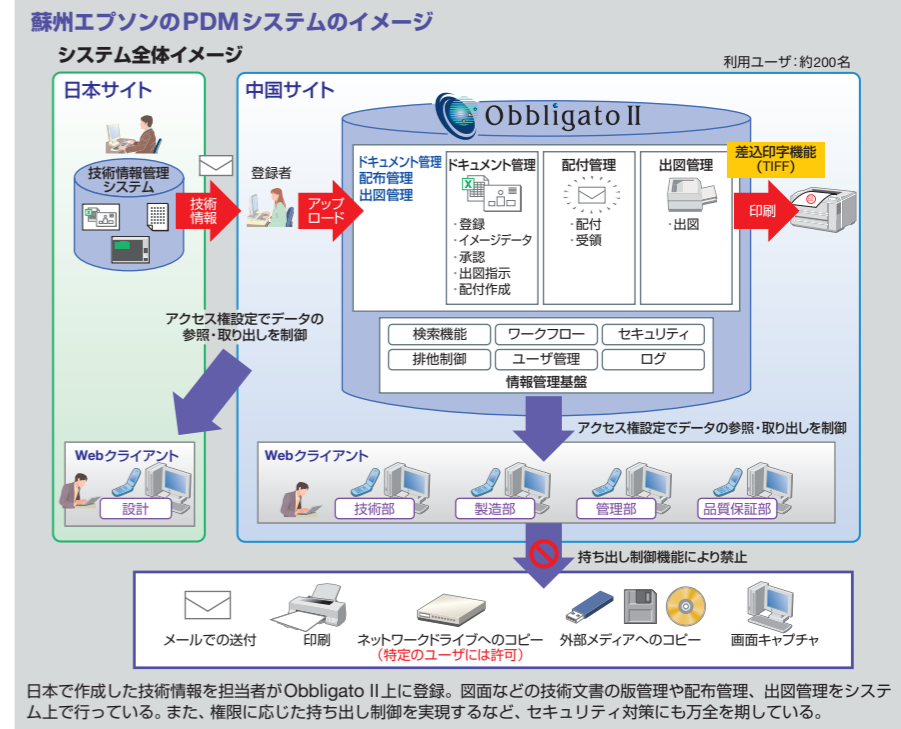
基善氏は強調する。

PDMシステム自体が持つ 豊富なセキュリティ機能を評価

PDMシステムの構築に着手した蘇州エプソンは、複数のベンダーに提案を依頼。最終的に「Obbligato II」を用いたNECの提案を採用した。大きな決め手になったのがセキュリティ機能だったと三輪氏は説明する。「他社の提案は、PDMシステムで文書管理の仕組みを構築し、セキュリティはシステムインフラ自体の機能でまかなうというものでした。しかし、NECさんのObbligato IIはPDMシステム自体にセキュリティ機能が装備されており、導入期間やコスト、稼働後の運用管理の面でも大きなアドバンテージを感じました」（三輪氏）。

2009年4月に稼働を開始した新PDMシステムの名称はSOCRATES（ソクラテス：SuzhOu CollaboRAtion & TEchnical documents management System）と名付けられた。蘇州エプソンの担当者は、エプソンイメージングデバイス側で改版、もしくは新たに作成された文書をネットワーク経由で随時取得し、翻訳した上でObbligato IIに登録。Obbligato II上には、あらゆる文書が一元管理され、必要に応じて検索、出図指示、配布、さらには、変更の履歴確認などが行えるようになっている。

セキュリティ面では、暗号化技術ではなく、アクセス制御を中心とした複数の機能によって強固な環境を実現。例えば、翻訳済みかどうか、正しい承認を経てリリースされたものかといった文書のステータスや社員の役職ごとにアクセス制御を設定し、情報参照を制御している。また、情報の持ち出しについても、文書の印刷時には印刷を指示した社員の氏名とプリントした時刻が強制印刷されるようになっているほか、権限に応じてUSBメモリなどの外部メディアへのコピー、メー



日本で作成した技術情報を担当者がObbligato II上に登録。図面などの技術文書の版管理や配布管理、出図管理をシステム上でやっている。また、権限に応じた持ち出し制御を実現するなど、セキュリティ対策にも万全を期している。

ルへの添付、画面キャプチャなどを抑止する仕組みを構築している。

今回のシステム構築は、わずか2カ月という短期間で完了したが、背景には、NECが中国市場向けにメニュー化しているPLM (Product Lifecycle Management) ソリューションの「クイックスタートサービス」があった。これは、NECが約500社もの顧客のPLMシステム構築において培ったノウハウに基づき、データモデルや各種パラメータをテンプレート化し提供するというもの。鈴木氏は「大きなカスタマイズを行うことなく、フィット&ギャップ分析によって我々の詳細な要件を満たしつつ、2カ月という短期間で構築を完了してくれました」と評価する。

他システムとの連携も視野に 広範な情報の管理基盤として期待

ソクラテスにより、蘇州エプソンは強固なコラボレーション基盤を整備することができた。「情報の整合性の問題、情報のトレースに手間がかかるといった問題を解消できた上、万全のセキュリティが実現できたおかげで情報共有をさらに促進して

いくことができます」と鈴木氏は話す。

今後、蘇州エプソンでは、品質管理部門など、他の部門が保有する広範な情報もソクラテス上で管理したいと考えている。「さらにBOM (部品表: Bill of Materials) の管理もPDMシステムで行い、ERPシステムと連携することでSCM (Supply Chain Management) を実現するというビジョンもあります。また、技術系のワークフローとOA系のワークフローも統一し、業務効率化を一層促進していきたいとも思っています。こうした次の展開に向けても、NECさんには積極的な提案をお願いしたいですね」と三輪氏は、最後にNECへの期待を述べた。



お問い合わせ
NEC
第一製造業ソリューション事業部 CPCソリューショングループ
E-mail oblsales@cpc.jp.nec.com
URL <http://www.nec.co.jp/obbligato/>